

乙部 延剛

法学研究科・教授

【研究】

これまで主に取り組んできた「愚かさ」に関する研究について、令和2年に単著Stupidity in Politicsを刊行し、ひと区切りをつけた。令和3年度は主に、(1) 次の単著として、卓越主義の研究に着手するとともに、(2) 研究代表者として科研費の交付を受け、1930-40年代の日本思想に関する共同研究を開始した。後者については、香港中文大学のワークショップで関連した報告を行い、それを基にした論文を国際英文査読誌に投稿中である。当該論文は修正の上掲載可の査読結果を得ており、現在修正中である。また、(3) 上で触れたStupidity in Politicsについても、日本語版の執筆を開始した。なお、同書については社会思想史学会大会(令和3年秋)や大阪大学未来共創センター(哲学の実験オープンラボ)(令和4年3月)で合評会が開催されるとともに、学術誌『政治思想研究』でも書評が掲載された。あわせて、(4) 過去数年来取り組んできた「ポスト現代思想の政治」についても、他機関の研究者1名との共著で研究書を刊行すべく、執筆を進めている。今年度か来年度には出版の見込みである。

【教育】

着任して3年目となる令和3年度は、演習に所属した学部生が初めて卒業する学年にあたり、演習の指導について、試行錯誤をしつつも力を入れた。担当する演習では、リサーチ及びアカデミックな文章執筆の訓練を重視しており、論文提出を課すとともに、青雲賞への応募を推奨している。初の演習生が青雲賞の優秀論文賞(1席)を獲得したことは、むろん学生本人の努力と資質の賜物によるものだが、望外の喜びであった。学部教育においては、その他、今年度は初めて「学問への扉」を担当した。初年次演習をハイブリッド形態で行うことには様々な難しさがあったが、受講生から得たフィードバックを活かして今後も工夫していきたい。大学院においては、指導を担当する大学院生はいないものの、他専攻、他研究科からの分野外の受講生にとっても有益な授業となるよう工夫を進めている。

【管理運営】

部局内では、国際交流室および研究科教務委員会に所属し、関連する業務に従事した。全学では、マルチリンガル・エキスパート・プログラム運営協議会に所属し、定期的な会議のほか、説明会等の業務に従事した。

【社会貢献】

所属する日本政治学会において、令和4年度研究大会(令和4年秋開催予定)の企画委員に就任し、令和3年秋以来、研究大会の企画の作業に従事している。また、参画する国際的な研究ネットワークAsia Theories Networkが母体となって発行するオンライン誌Critical Asia Archivesの編集委員(Editorial board)をつとめており、June 2021 issueについては巻頭言の執筆を行ったほか、内容の企画等に関与している。